

第1章 はじめに

1-1 計画策定の目的

白糠町は、昭和 39 年、石炭や木材の資源開発の重要路線として国鉄「白糠線」が開通し、炭鉱景気により大いに賑わいを見せたが、相次ぐ炭鉱閉山とともに利用者が減少し、昭和 58 年に全国初の赤字ローカル線として廃止となった。同時に代替バスへと転換し、現在も町営バスが沿線を運行している。

住民が生活を営む上で公共交通による「移動手段」は欠かせないが、時代の変遷とともに車に頼った生活への変化、急速な人口減少や少子高齢化の進展などの要因により、公共交通利用者が減少し、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の低下につながり、公共交通を取り巻く環境は更に厳しさを増している。将来的に地域公共交通が成り立たなくなることが懸念される。

一方、高齢化社会の中で、高齢運転者の交通事故対策や運転免許の自主返納等、今後運転することができない高齢者が増加することが予想されるため、住民だれもが生き生きと外出し、活動できる移動手段の確保の重要性はますます高まっていく。

こうした背景を踏まえ、将来を見据えた町の公共交通を確保、維持していくためには、公共交通を取り巻く現状と課題と多様化する住民ニーズをしっかりと認識し、利便性のある公共交通ネットワークの再編を図る必要がある。

そのため、上位計画や関連計画との整合や連携の下で、白糠町にとって望ましい公共交通網の姿を明らかにする「マスタープラン」として、「白糠町地域公共交通網形成計画」を策定し、将来的にも持続可能な公共交通網を形成し、住みよいまちづくりを目指すものである。

1-2 計画の区域

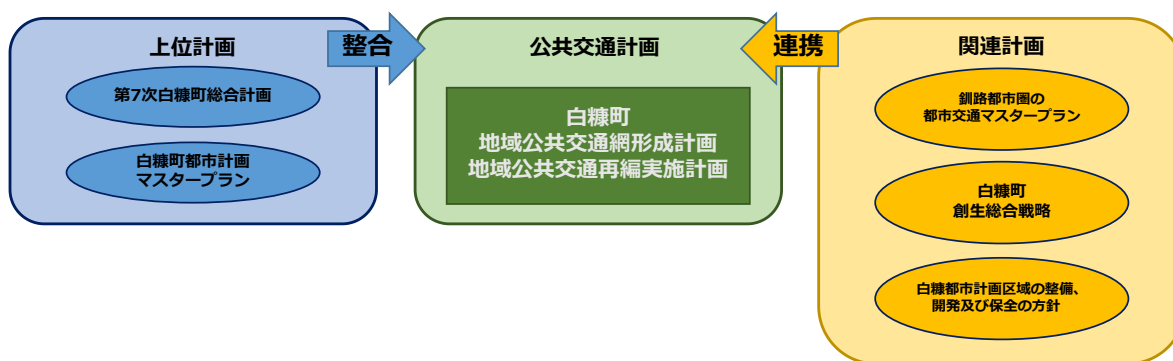
白糠町全域

1-3 計画の対象期間

平成 29 年度～平成 33 年度の 5 年間

1-4 計画の位置づけ

- ・本計画は、次に示す上位計画と関連計画との整合性や連携を図った内容とする。
- ・また、釧路都市圏が目指す将来像を示した『釧路都市圏の都市交通マスタープラン（目標年次：平成42年度）』の「骨格公共交通網」の考え方を踏まえるものとする。
- ・上記、上位・関連計画を踏まえ、白糠町の公共交通におけるマスタープランとして策定する。
- ・計画の実現に向けては、地域公共交通再編実施計画を策定することとする。



	計画名	計画期間等
上位計画	第7次白糠町総合計画	平成20年度～平成29年度
	白糠町マスタープラン	平成20年度～平成40年度
関連計画	釧路都市圏の都市交通マスタープラン	平成24年度～平成42年度
	白糠町都市計画区域の整備、開発及び保全の方針	平成32年（目標年次）
	白糠町創生総合戦略	平成27年度～平成31年度
	地球温暖化防止実行計画	平成28年度～平成32年度

図 1 上位・関連計画の整理